

**令和6年度（2024年度）
吹田市立図書館点検・評価報告書**

令和7年（2025年）11月15日

吹 田 市 立 図 書 館

この点検・評価報告書は、図書館法（昭和25年4月30日法律第118号）第7条の3に基づき、吹田市立図書館の運営の状況について自己評価を行うとともに、図書館協議会による外部評価をいただいて作成し公表するものです。

吹田市立図書館は、「吹田市立図書館サービス基本計画（令和5年度（2023年度）－令和14年度（2032年度）」において、図書館が目指す3つの基本目標と、その目標を具体化するための個別の図書館サービス事業として9つのサービス方針を掲げています。

この基本計画に基づいて設定した「令和6年度 吹田市立図書館の目標」に対し、自己評価と外部評価を行います。

＊令和6年度（2024年度）の吹田市立図書館の活動については、「吹田市の図書館活動＜令和6年度（2024年度）統計＞」として、図書館ホームページで公表しています。

吹田市立図書館の3つの基本目標

基本目標 1 地域の情報拠点として、いつでも、どこでも、だれにでも役立つ図書館を目指します。

基本目標 2 生涯学習を支援して、人生を豊かにする図書館を目指します。

基本目標 3 子育て支援や学校との連携を通して、子供の健やかな成長に役立つ図書館を目指します。

指標の評価基準について

【数値目標】

A	数値目標を達成	100%以上
B	数値目標をやや下回った	70%～100%未満
C	改善が必要	70%未満

※数値に関する指標について、目標が「経年比増」とあるものは、令和5年度の実績値を100とし、令和6年度実績値が100%以上のものをA、70%～100%未満のものはB、70%未満であればCとします。

【実施目標】

A	達成	目標に対し順調に進めることができた
B	一部達成	目標の一部のみ進めることができた
C	未達成	取組みはしたものの目標を進めることができなかった

基本目標1 地域の情報拠点として、いつでも、どこでも、だれにでも役立つ図書館を目指します。

サービス方針Ⅰ 資料と情報の提供

【令和6年度目標の取組み状況】

（目標）

- 1 地域資料のデジタル化を推進するため、課題や手法の研究に努めます。
- 2 改訂対象の児童書の年齢別リストを3種類改訂します。
- 3 蔵書の更新や各館の特色に応じた資料の保存など、適正な資料管理に努めます。

- ・ 地域資料の内メールマガジン等定期刊行物については、引き続き電子資料として蔵書検索システムに登録を行いました。全体的なデジタル化の推進については研究を進めていますが、具体的な取組みには至っていません
- ・ 児童書の年齢別リストのうち、「赤ちゃんとお楽しみ絵本 ～0・1才から～」、「こどもとお楽しみ絵本 ～2・3才から～」、「こどもとお楽しみ絵本 ～4・5才から～」を改訂しました。
- ・ 令和6年度末の図書所蔵数は約120万冊（うち開架図書比率：58.3%）となっています。書架の新鮮度を保つために適切な蔵書の更新を行う必要があります。また、所蔵資料の価値を判断し、除架・除籍業務を円滑に進めることができる職員の育成が課題となっています。
- ・ 個人貸出点数は358万672点（電子書籍は含まず）で、前年度より約17万点減少しました。全館的に押並べて減っているのが特徴です。市民一人当たりの貸出点数は9.32点で前年度から減少しました。（前年度：9.81点）
- ・ 予約受付件数は約126.9千件で、前年度から減少しました。（前年度：約129.7千件）
令和6年1月には発注済資料のWeb-OPAC予約が可能になり、10月には窓口での予約方法を変更し、利用者の利便性を高めつつ業務の効率化を図りました。
- ・ 日本全国ランキング*で見ると、個人貸出数は令和3年度から3年連続、人口30万人以上の市区でベスト10入りしています。また、予約件数は平成23年度以降13年連続でベスト10入りしています。今後も市民の身近な図書館として役立つサービスを継続的に提供できるように努めます。*「図書館年鑑 2025」（日本図書館協会 2025年7月31日刊）ほか。なお、ランキングは令和5年度統計が最新。
- ・ 指標であるレファレンス受付件数については、前年度より76件減となりました。より一層サービスを周知し、利用促進を図ります。

(指標)レファレンス(※1)受付件数			
令和3年度 (策定時)	令和6年度		評価
	目標	実績	
10,455 件	経年比増 (令和5年度実績:12,839 件)	12,763 件	B

※利用者、他自治体、行政、学校などから受けた質問の総件数。

【図書館協議会委員の意見】

- ◎全国ランキングでの位置、また利便性の向上を図る取組み等から見て、概ね良好な取組状況と考えます。
- ◎全国的に比較すると吹田市では図書館がかなりよく利用されているということですが、このまま利用減少が続くといずれ図書館にかけられる費用減やそれに伴うサービスの縮小など影響が出てくるかと思います。質の高い図書館サービスを今後も継続していくためには利用者増を目指していく必要があるかと思います。
- ◎貸出数は減少しているということだが、近隣の図書館をみていると、乳幼児と高齢の方の利用は多いように思います。施設を利用しているだけの人たちも多いのかもしれない。大人向けに本の紹介の会を開くことも効果的かもしれないと思っています。
- ◎電子図書館の活用において、予約が必須の書籍も多い感があります。さっと手に取れる（読める）と魅力が増します。
- ◎個人貸出点数が減った件について、千里山・佐井寺図書館の休館が原因の一つということですが、さらに原因を考えて対策をたて、令和7年度はより市民に利用されるよう努めてください。
- ◎地域資料のデジタル化に向けた人材育成を期待します。
- ◎地域資料のデジタル化は良い取り組みです。効率よく検索できることを期待します。
- ◎地域資料のデジタル化については、潜在的なものも含めると非常に高いニーズがあると思います。全国的な事例も蓄積されているようですので、活用事例を含めた研究を進めていただければと思います。
- ◎地域資料のデジタル化は、学習活動におけるツールとして有効性が高いと考えます。調べ学習等の際にも児童が扱いやすく、ぜひ進めていただきたいです。
- ◎発注中の資料にも Web から予約ができることになり、便利になりました。今後も、なるべく早く市民の手に資料が届くよう、工夫してください。
- ◎指標である「レファレンス数」は、AI が使われるなどして、いずれ検索システムが改善されれば減る可能性があるものなので、指標として適切かは近いうちに見直す必要があるのではないか。
- ◎レファレンス受付件数が経年比増には届かなかったものの、ほぼ同じ水準に達したのは評価できると思います。
- ◎吹田市立図書館のレファレンスは素晴らしいと思っています。もっと広く知ってもらう方法がないのでしょうか。指標としては目標に達していないが、数値だけではないものがどうしたら評価として表せるのかと思います。

サービス方針2 バリアフリー読書支援サービス

【令和6年度目標の取組み状況】

(目標)

- 1 利用者の要望や意見をサービス改善に役立てるため、「障がい者サービス利用者懇談会」を開催します。
- 2 市立図書館で製作したアクセシブルな書籍等(録音図書、点字図書、さわる絵本)を全国で利用できるよう、サピエ(視覚障害者情報総合ネットワーク)図書館と国立国会図書館へのデータ提供を継続します。また、それらの資料を製作する音訳者、点訳者の養成講座を開催します。
- 3 活字を読むことが困難な方を対象に、オンラインも含めた、対面朗読サービスを行います。
- 4 市立図書館が提供しているバリアフリー読書支援サービスについて周知するために、図書館ホームページのコンテンツの充実を図り、読み上げソフトや点字に対応できるよう、テキストデータや BES データ(※2)で情報を提供します。
- 5 バリアフリー読書支援サービスの認知度拡大のため、配布の時期や対象を明確にしたチラシを発行します。また、児童生徒を対象とした、バリアフリー読書の支援に役立つパンフレットの発行を目指します。点字図書館、サピエ図書館及び国立国会図書館についても合わせて紹介していきます。
- 6 多様な読書方法への興味や関心を抱ききっかけづくりとして、体験型イベント「見て、聴いて、さわって楽しむ読書の世界 in すいた」を引き続き開催します。

- ・「障がい者サービス利用者懇談会」として、対象者76人の方と直接電話で聞き取りを行いました。各サービスに対する御要望を伺い、サービス改善に努めました。
- ・令和6年度は、音声デージー図書(※3)75点、点字図書30点、さわる絵本(※4)2点をサピエ図書館(※5)や国立国会図書館へデータ提供を行いました。
- ・対面朗読サービスは220回行いました。利用登録者の高齢化に伴い実利用者数が前年度と比較し25%減少しており、対象者ひとりひとりに合わせたより利用しやすい仕組み作りが課題です。
- ・図書館ホームページのコンテンツの充実については、障がい者関連リンク集を新たに作成しましたが、テキストデータや BES データについては、次年度内の完成を目指します。
- ・児童生徒を対象としたバリアフリー読書支援に役立つパンフレットの発行は未着手のため次年度課題とします。
- ・図書館が提供しているサービスの内容や利用方法を周知する「見て、聴いて、さわって楽しむ読書の世界 in すいた」を昨年度に引き続き開催し、60人の参加があり好評でした。

(指標) アクセシブルな書籍等の年間貸出点数			
令和3年度 (策定時)	令和6年度		評 価
	目 標	実 績	
31,803 件	経年比増 (令和5年度実績: 34,009 件)	33,086 件	B

※デジタイズ図書、テープ図書、点訳図書、さわる絵本のダウンロード数及び総貸出数。

【図書館協議会委員の意見】

- ◎障がい者サービスについては、図書館が実施していることを市民があまり知らないことが想像されます。広報等をこれまで以上に積極的に展開されることを期待しています。
- ◎バリアフリー読書支援サービスは以前は考えられませんでした。サービスの進化は嬉しく思います。
- ◎障がい者サービスは、当事者でなければわからないことも多いので、実際に利用者の方々に聞き取りを行い、より良い方向に改善していくことは、また改めて当事者も声を上げやすく、とても良い取り組みだと思います。ただ、まず図書館に出かけてみる、情報を調べるというその一歩が、当事者には、難しい現状もあると思います。
- ◎「障がい者サービス利用者懇談会」について、職員との対話ができているのはよいが、利用者相互の交流で生まれる知恵もあると思うので、対面での開催の併用もめざしてください。
- ◎障がい者サービス利用者懇談会の対象に聴障者も含めて欲しい。
- ◎アクセシブルな書籍等の年間貸出点数が目標値に到達しなかったのは残念でした。周知の仕方を工夫して利用増につなげてほしい。
- ◎オンラインコンテンツが充実してくると、対面での利用が減る可能性もあると思います。
- ◎バリアフリー読書支援サービスについては、初めて知る内容が多かったです。必要としている、または機会があれば利用するかもしれない方々にサービスの情報を届ける必要性を感じます。サービスの直接の対象者でなくても、点字などはふれる機会があれば興味をもつ児童生徒もいるかもしれません。学校や地域でのポスター掲示なども良いのではないのでしょうか。
- ◎体験型のイベント開催は、きっかけとしてニーズのある取組だと考えます。継続・拡大すべきものという印象です。

サービス方針3 持続可能な運営

【令和6年度目標の取組み状況】

（目標）

- 1 図書館サービスを取り巻く環境変化や新たな課題に対応しつつ、キャリア形成の段階に応じて専門的能力を発揮できるよう、計画的な研修受講をすすめます。
- 2 職員のレファレンス技術向上におけるツールを作成し、活用します。
- 3 施設管理について、より持続可能な運営を行うため、同一業務を複数の図書館で一括で委託することにより、業務の見直しを進めます。
- 4 令和8年に予定する図書館電算システムの更新に合わせ、ICT（情報通信技術）を活用したサービスの提供の検討を進めるとともに、効果的・効率的な運営を推進するため、業務の見直しを進めます。
- 5 サービス向上、利用者満足度の向上のため、利用者アンケートを実施します。

- ・ 昨年度策定した司書の専門研修の受講基準に基づき、職員の研修受講を進めるとともに、館内での研修も実施し、職員のスキルアップに取り組みました。
- ・ 複数の図書館における同一の施設管理業務について、契約事務を一括で行うことにより、事務作業の効率化を図りました。
- ・ 図書館電算システムの更新にあたり、各館の状況もヒアリングし、調達仕様書を作成しました。また、年度内にホームページ更新に係る契約を締結しました。
- ・ 令和6年12月6日から12月14日までの期間で、利用者アンケートを実施しました。総合的な図書館の評価については、「満足」と「やや満足」を合わせると86.2%と概ね高評価をいただきましたが、引き続きサービス向上、利用者満足度の向上に努めます。

(指標)ICTの活用		
令和6年度		評価
目標	実績	
次期図書館電算システム構築案の作成	次期図書館電算システム構築案の作成	A

【図書館協議会委員の意見】

- ◎持続可能な運営に向けて職員の研修の充実や事務の効率化等を着実に進められており、目標を達成されていると考えます。
- ◎職員のスキルアップのための研修を進められているところはよい。
- ◎専門性を有する司書がおられることで、図書との出会いが広がるはず。利用者のニーズ（選書等）に応えられる力とコミュニケーション力も兼ね備えてもらえると、利用頻度の少ないも

のにとって安心感が大きいと考えます。

- ◎利用者として、レファレンスも満足していますし、この水準が続いてほしいと思っています。
- ◎図書館の運営について、職員が一体となって働ける直営がいいと考えますが、委託する場合は、よりよい事業者が選べる選定方式を採用してください。
- ◎次期図書館電算システムへの移行に係る手続きがこれから本格化していくかと思いますが、一歩間違えると利用に影響を与える可能性がありますので、慎重に準備してってください。
- ◎令和8年度以降の ICT を活用したサービスの向上に期待したい。
- ◎利用者アンケートの結果、利用者満足度が高くて、よかったです。利用していない市民についても、なぜ利用しないのか、適宜調査してください。
- ◎利用者アンケートを引き続き実施をお願いしたい。
- ◎一利用者として千里図書館を利用していますが、いつも居心地がよく、職員の対応も親切で質の高いサービスを感じています。アンケートの結果も高評価とのことで、今後も引き続きそれを保つことができればと思います。

基本目標2 生涯学習を支援して、人生を豊かにする図書館を目指します。

サービス方針4 利用促進

【令和6年度目標の取組み状況】

（目標）

- 1 新規サービスはもとより、図書館サービスの基本的な情報を利用者に周知するため、ホームページやSNSでわかりやすく紹介します。
- 2 現在図書館を利用していない市民へ利用を促すため、市役所本庁舎などでの年一回以上の図書館外におけるPR活動や吹田市生涯学習出前講座(※6)、講師派遣の取組を引き続き行います。
- 3 施設の魅力向上を通じて施設の年間入館者数増を目指します。

(参考)「第2期吹田市教育振興基本計画 吹田市教育ビジョン」における指標
203.0 万人(令和6年度)

- ・ 図書館サービスの基本的な情報の周知については、SNS を利用した発信は実現できませんでしたが、利用案内等のホームページ掲載内容を見直し、利用者への周知に努めました。また、行事や講座の案内について市 LINE に掲載することにより、図書館利用の促進を図りました。
- ・ 令和6年度についても、本庁ロビーでの利用者登録会を行いました。電子図書館の利用説明やブックスタートの絵本のお渡しなど、様々な対応ができ、図書館のPRにもつながりました。また吹田市生涯学習出前講座は1回、講師派遣は8回行いました。

- ・ 令和6年度の年間入館者数は前年度と比較し約1万人増の2,107,567人でした。「第2期吹田市教育振興基本計画 吹田市教育ビジョン」における指標は前年度に続き上回る事ができました。

(指標)市民の利用登録率			
令和3年度 (策定時)	令和6年度		評 価
	目 標	実 績	
25.0%	28.2%	26.7%	B

※実績の数は登録者数(市内のみ)を令和7年3月末の人口で除したもの

【図書館協議会委員の意見】

- ◎SNSの活用については、発信する情報の内容によって市民の方の利用も変わってくると思います。全国的にいろいろな活用事例があるので、他市の成功事例を参考にして吹田独自のサービスを展開できることを期待しています。
- ◎SNSを利用した発信が実現するように計画してほしい。市民の利用登録率が高まることを望みます。
- ◎図書館サービスの周知につき、SNSでの発信も実現されるよう努力いただきたいとは考えますが、概ね良好な取組み状況と考えます。
- ◎市の LINE を利用すると、普段図書館を利用していない人にも情報が届くので、いいと思います。
- ◎利用促進のアナウンス・イベント等は、活性化を図るために不可欠です。
- ◎フェア的なものの実施で、興味・関心を広げられるのではないかな。
- ◎本庁ロビーでの利用者登録会は効果的だと思います。開催回数を増やすか、開催場所を増やす検討をしたらどうでしょう。
- ◎利用者登録会は回数を増やしてもよいのでは。案外、利用法をよく知らない市民もいます。
- ◎図書館のメルマガやホームページなどなかなか見ることが出来ない方もいると思います。そういう方々に吹田市役所でのPR 活動は、とてもよい取組みだと思います。市役所本庁だけでなく他の場所でも対面でPRしてもらおう、行ってみようと思う人もいるのではないかと思います。実際に人と出会う機会は、今でも大切だと思います。
- ◎利用登録率 26.7%というのが4人に1人は図書館の利用登録をしているということであれば、かなり多い数字なのではと感じました。図書の貸出数は減少しているとのことでしたが(基本目標1・サービス方針1参照)、入館者数は増えているということで、図書の貸出以外の利用も盛んに行われているということかと思われます。
- ◎SNSを利用した情報発信にはメリットはもちろんですがデメリットもあり、必要かどうか検討してください。

サービス方針5 特色あるサービス

【令和6年度目標の取組み状況】

（目標）

健康・医療情報サービス

- 1 健都ライブラリーを中心に市民の関心の高い医療や健康問題に関する幅広い資料を収集・提供します。
- 2 パスファインダー（※7）については引き続き新規作成や改訂をし、更なる充実を図ります。また健康医療情報講座としてパスファインダーの使い方を紹介します。

多文化サービス

- 1 吹田市に在住・在勤・在学の外国人を支援するため、市関係部署と連携し、外国人利用者の図書館見学会を年1回以上実施します。
- 2 外国にルーツを持つ児童を支援するため、小学校や市関係部署と連携し、外国語の図書や電子書籍の提供を進めます。
- 3 市内の大学と連携し、留学生との交流事業を実施します。

ビジネス支援サービス

- 1 江坂図書館を中心に市民の経済活動を活性化するため、市関係部署と連携し、ビジネスや起業に役立つ講座を開催します。
- 2 市関係部署と連携を図り、ビジネス支援だよりを定期的に発行します。
- 3 類縁機関と連携したビジネス支援サービスが展開できるよう、協議を進めます。

就労・就業支援サービス

- 1 さんくす図書館を中心に市民の就労・就業を支援するため、資格取得の問題集や参考書、電子書籍の充実を図ります。
- 2 若者の社会参画や就労を支援するために、市関係部署と連携し、就労支援事業や各種講座に協力します。

（1）健康・医療情報サービス

- ・ パスファインダーについては、新規に「循環器病」を調べる方へ」を国立循環器病研究センターの監修を受けて発行しました。また「認知症」を調べる方へ」の第3版を発行しました。健康・医療情報に関するパスファインダーは9種類となりました。今後も定期的に改訂し、利用者にとって使いやすいパスファインダーを作成していきます。また新たな取組として、健康医療情報講座「パスファインダーの使い方」を開催しました。

(2) 多文化サービス

- ・千里図書館では、吹田市国際交流協会主催の日本語学習コース受講者の図書館見学を2回述べ17人受け入れました。
- ・外国にルーツを持つ児童を支援する取組みとして、小学校からの依頼を受け外国語の図書を貸出しました。

(3) ビジネス支援サービス

- ・江坂図書館では、ビジネス講座「吹田で叶える私の起業」を開催しました。参加者からいただいた声を参考に、今後もニーズに合った講座の開催に努めます。また、地域経済振興室と連携し、ビジネス支援だより12号及び13号を発行しました。

(4) 就労・就業支援サービス

- ・資格取得に関する問題集や参考書を購入し、さんくす図書館のハロージョブコーナーの充実に努めました。また、すいた電子図書館においても資格や検定に関する電子書籍の購入を進め、充実を図りました。
- ・資料の利用促進のため、すいた電子図書館のジャンル検索の項目に「資格・検定」を追加しました。
- ・さんくす図書館ハロージョブコーナーに、情報提供の一環として、就労・就業に関する他施設（JOBナビすいた、OSAKAしごとフィールド等）発行のパンフレットやちらしを継続して設置しました。
- ・関係機関との連携企画については、地域の会議に参加して図書館サービスのPRを行いました。

(指標) 関係機関との連携(連携した企画の実施回数)		
令和6年度		評価
目標	実績	
4回／年	35回／年	A

※令和6年度実績内訳:健康医療情報サービス30回、多文化サービス2回、
ビジネス支援サービス3回 就労・就業支援サービス0回

【図書館協議会委員の意見】

- ◎パスファインダーの充実は、図書館(資料)活用を活性化させるためのキーコンテンツだと考えます。パスファインダーの認知度を上げる工夫も必要です。
- ◎パスファインダーやビジネス支援といった名称は、図書館業界では一般的になりつつありますが、市民の方、特に図書館を普段あまり利用されない方にとっては馴染みのないものだと思います。実際の活用事例を積極的に紹介していくことが利用増につながると考えます。

- ◎指標について、全体の回数は多いですが各サービスのバランスが少し悪いように見えます。
- ◎吹田の各図書館に特色があるのは、面白く興味深いと思っています。地域の図書館だけでなく、吹田の他の地域の図書館にも興味を持たれると思います。
- ◎各種サービスの充実に努められていると判断いたします。
- ◎関係機関との連携の多くが健康医療情報サービスですが、健康医療に関してはとても需要のあるジャンルですので、盛んに連携が行われているのは素晴らしいことだと思います。

(1) 健康医療情報サービス

- ◎パスファインダーの発行によって、利用者が調べやすくなっているところがよいと思います。
健都ライブラリーは、医療や健康に関する他の図書館にはない資料があり、循環器病センターや吹田市民病院の帰りに調べるだけでなく、他の図書館に取り寄せが可能なことをもっと周知してほしいと思います。
- ◎パスファインダーという言葉を今回初めて知りましたが、特定の情報を求めて来館される方にはとても有用なものだと思います。更なる充実と共に、パスファインダーの存在の周知がもっと盛んになればと思います。
- ◎きちんと医療機関の監修を受けたパスファインダーが作成されていることを知って、評価したいと思います。今後は、既存の2つ以外の他分野でもパスファインダーが作成されることを期待します。
- ◎「パスファインダーの使い方」講座の実施は、認知度を上げるためにも有効であったのではないのでしょうか。
- ◎健康・医療情報については疑似科学のような書籍も紛れ込みやすいと思いますが、そういうものをうまく排除する仕組みがあるのか少し気になりました。
- ◎書店の閉鎖が相次ぐご時世に図書館で資料検索できるのは助かります。

(2) 多文化サービス

- ◎多文化サービスのさらなる向上に期待します。支援という視点があることはとても大切だと考えます。
- ◎外国にルーツのある人への取組みがなされている点はよいと思います。小学校のみならずいろいろな学校とも連携を深めて、多文化社会に対応して欲しい。
- ◎吹田市国際交流協会との連携や小学校との連携に力を入れられているのが分かりました。
- ◎小学校と繋がり対象の児童を支援できるというのは素晴らしいサービスだと思います。図書館は語学学習にも最適な施設ですので、見学会があるのも良いと思いました。
- ◎地域的に外国からの留学生や研究者とそこご家族が多いので、その方々へのサービスも必要と思いますが、逆にその方々の国の文化や言語、文字などに関する本を紹介するとともに話を聴ける機会がもっとあるといいと思っています。
- ◎学校においては、外国籍児童も増えており、外国の文化や言語を取り上げたイベント(読み聞かせ・フェア)等、足を運びたいような、また、理解を広められるようなサービスに期待したい。

- ◎外国にルーツを持つ児童は増えているので、「小学校からの依頼を受け外国語の図書を貸出」はもっと増えてほしいし、「依頼を受け」だけでなく、図書館側からプッシュするような取組みを進めてほしい。
- ◎外国にルーツを持つ児童は今後も増えていくと考えられますので、関係機関と連携し、市内の状況を把握しつつ、より積極的に取り組んでいてもらえればと思います。
- ◎外国にルーツを持つ子供たちに多文化資料を提供できていたことを知って、うれしく思いました。保護者の方も、子供たちが母国語に触れるのを喜ばれたと思います。こんな取組みが、もっとたくさんの人に広がるよう、PRをお願いします。

(3) ビジネス支援サービス

- ◎このような支援に図書館が関わっていることの認識(イメージ)があまりなかった。これら取組みをもっとアピールしてもよいのではないか。
- ◎このようなサービスがあることを知りませんでした。起業についての講座が開催されたとのことですが、今後も様々な働き方が増えていくと思いますので、同様の講座や確定申告の講座などもあれば良いのではと思いました。市内の様々な機関との連携があればそれぞれのサービスがより市民に身近なものになるのではと思います。
- ◎実際に参加した人の声を次の講座に反映させるという姿勢がよい。より多様な人の需要に対応できるような仕組みも期待します。
- ◎ビジネス支援はどこまで図書館がやるべきサービスかは分かりません。もう少し専門の組織につなぐなどのサービスもあってもよいかもしれない。

(4) 就労・就業支援サービス

- ◎このような支援に図書館が関わっていることの認識(イメージ)があまりなかった。これら取組みをもっとアピールしてもよいのでは。
- ◎資格に関する問題集や参考書は、法律改定などの理由で常に最新のものが必要になるかと思います。最新の資料を常に購入し続けるのは大変ですが、需要は多いのではと思います。
- ◎資格取得の問題集など利用者にすぐに役立つものが充実していくのは望ましい。
- ◎関係機関との連携が重要だと思うので、継続して関係諸機関との連絡を行っていただくことを期待します。
- ◎「関係機関との連携」が重要ではないか。
- ◎様々な取組みがなされていますが、関係機関との連携企画については実施できていないようですので、他自治体の取組み等を参考にして、関係機関へのPRや具体化を進めてもらえればと思います。
- ◎学生、若い人の利用促進に力を入れてはどうか。ビジネス支援、就労支援サービスがあることをはじめて知りました。このようなサービスがあることをもっと市民にPRはいかがでしょうか。

サービス方針6 施設や地域との連携

【令和6年度目標の取組み状況】

（目標）

- 1 市内に所在する大学と連携し、図書館実習生・インターンシップの受入、留学生や司書課程受講者向けの図書館施設見学、連携行事などを行います。
- 2 子育て世代や児童の利用を促すため、子供に係る施設や団体との連携行事を実施し、講師派遣や出前講座を行います。
- 3 成人向けに、吹田市生涯学習出前講座などで司書の専門知識を生かした講座を実施するなど、図書館の魅力をPRします。
- 4 吹田市内にある各施設の魅力を互いにPRするため、市内施設との連携の取組みを進めます。

- ・ 市内に所在する大学から、14回延べ335人の図書館実習、就業体験、見学を受け入れました。
- ・ 吹田市生涯学習出前講座は1回11人、講師派遣は8回224人の参加でした。うち児童センターは5回101人、保育所・こども園は1回105人でした。
- ・ 市内各施設との連携では、図書館フェスタじゅずつなぎにおいて、中央図書館では、吹田市立博物館の学芸員を講師に迎えた講演会を開催しました。また、博物館との連携としては、健都ライブラリーに常設の展示コーナーを継続して設置しています。
- ・ 山田駅前図書館では、保護者に読書の時間をプレゼントする「ひとりのびのび読書タイム」をのびのび子育てプラザと連携して実施しました。

(指標) 講師派遣回数(目標回数10回／年に対する達成度)			
令和3年度 (策定時)	令和6年度		評 価
	目 標	実 績	
20%	100% (令和5年度派遣回数: 14回140%)	90% (令和6年度派遣回数: 9回)	B

【図書館協議会委員の意見】

- ◎図書館実習、就業体験、見学、吹田市立博物館との連携等の取組みを継続されており、若干講師派遣回数が減少している部分が気になりますが、概ね良好な取組み状況と考えます。
- ◎指標は目標数値には達しなかったようですが、大学からの実習や見学の受け入れ人数や出前講座の参加人数も多く、良いのではと思います。

- ◎図書館に関心のある人が実習やインターンで、実際に関わる機会があるところは評価できます。講師の派遣回数も保てるようにできるとよいと思います。
- ◎大学との連携はいろいろな手法が考えられます。学生等の受入にとどまらず、専門性のある大学教員と専門書(カテゴリー)を結びつけた講演の実施など、大学ならではの専門性を活用することも可能ではないでしょうか。
- ◎地域の大学の先生や専門職の方の話をお聴きできる機会はとても貴重で、ありがたい取組みだと思っています。その繋がりが、1回限りの出会いではなく、引き続きの関係になることもあるといいと思います。
- ◎出前講座や講師派遣について、図書館や司書について知ってもらうよい機会だと思うので、図書館から積極的に案内を送ったらどうでしょう。
- ◎地域とのつながりが希薄になりがちなご時世なので今後の取組みに期待します。

サービス方針7 市民との協働

【令和6年度目標の取組み状況】

(目標)

- 1 乳幼児サービスに関わるボランティア(0~3 歳向け読み聞かせボランティア)の新規養成と技術向上のために、養成講座及びスキルアップ講座を引き続き開催します。また、交流会を行い、ボランティアの声を取り入れた支援を行います。
- 2 バリアフリー読書支援サービスに関わるボランティア新規養成と技術向上のために、養成講座を今年度も継続して開催します。また、交流会や懇親会を行い、より一層の協働を進め、ボランティア団体の活動を支援します。
- 3 年度登録制の個人ボランティア図書館フレンズ(※8)については、PR の機会を増やし新規ボランティアの獲得を目指します。
- 4 講座やイベントなどで市民を講師や演者に迎えた企画を実施し、市民の生涯学習を推進するとともに地域づくりに貢献します。

- ・乳幼児サービスに関わるボランティアの新規養成講座(全6回・延べ79人参加)とスキルアップ講座(2回・80人参加)を開催しました。また各図書館における職員とボランティアとの交流会に加えて、各図書館のボランティアの代表と中央図書館の職員が定期的に意見交換を行い、活動の充実を図っています。
- ・バリアフリー読書支援サービスに関わるボランティアの養成講座(全37回・延べ241人参加)を開催しました。
- ・年度登録制の個人ボランティア、図書館フレンズは、イベント補助、館内装飾、地域資料の整理などの活動を行いました。
- ・さんくす図書館では、市民との共催で子供向けのかがかく工作教室、千里丘図書館では、市民を講師に迎え新聞ちぎり絵講座を開催しました。

(指標) ボランティア総数			
令和3年度 (策定時)	令和6年度		評 価
	目 標	実 績	
580 人	養成講座定員分増 (3講座定員計40名 令和5年度実績:649 人)	660人	C

【図書館協議会委員の意見】

- ◎ボランティアの方の力というのは大きいと思います。
- ◎指標には達しませんでした。図書館に関わるボランティアの数が着実に増えていて、評価したいです。
- ◎ボランティア総数が前年より増えているのはよいと思います。さらに市民と協働できる仕組みを充実せられるとさらによいと思います。
- ◎ボランティアの養成講座も多くの方の参加があり、意欲的に取り組まれていると考えます。
- ◎図書館フレンズの活用は魅力的です。人を巻き込む・共働（協働）することで広がりにつながり、新たなアイデアも得られると思います。
- ◎地域とのつながりが希薄になりがちなので協働を通じてボランティア団体、市民同士交流も期待します。

基本目標3 子育て支援や学校との連携を通して、子供の健やかな成長に役立つ図書館を目指します。

サービス方針8 児童サービス

【令和6年度目標の取組み状況】

(目標)

1 ブックスタート事業(※9)については、引き続き絵本配付率80%を目指し、保育所赤ちゃん会や離乳食講習会に参加し、事業の説明や絵本の配付を行います。また、SNSを活用したPRについて内容の充実を図ります。

(参考)ブックスタート絵本配付率 79.8%(令和5年度)

2 乳幼児期から本に親しむ環境をつくるために、「抱っこで絵本講座」(※10)を地域の状況に応じ、各館1~2回開催します。

3 本や図書館に親しみを持つきっかけを作るため、おはなし会などの定例行事、「子どもと本のまつり」(※11)、季節ごとのおたのしみ会などを引き続き実施し、参加者増を目指します。

4 YA(12~18 歳)世代の利用促進を図るため、電子書籍をPRします。また、YAサポーター(※12)などYA世代自身が参加する取組を継続して行い、本や図書館に親しみを持つ働きかけを進めます。

- ・ブックスタート事業では、令和6年度から絵本のタイトルを5種類から6種類に増やし、選択の幅を拡大しました。絵本配付率は、離乳食講習会や赤ちゃん会、出前講座での配付が好調で、配付率は86.5%となりました。

＊配付率算出のための対象者数について、令和6年度から吹田市人口統計出生数に変更。

- ・SNSを活用したPRについては、市の親子健康応援アプリ「すいろぐ」の活用を継続し、赤ちゃんが4か月又は9か月になった時点でのお知らせ配信を行っています。また令和6年5月から市LINEによるお知らせ配信を開始しました。現在、赤ちゃんが4か月、8か月及び9か月になった時点で配信を行い、子育て世代へのPRを進めました。
- ・「抱っこで絵本講座」は延べ42回開催し、延べ253人の参加がありました。令和5年度より開催回数は減りましたが、各館での開催時期を調整することにより、参加者数は増えました。（参考：令和5年度延べ44回開催、延べ228人参加）
- ・おはなし会などの定例行事やおたのしみ会などは計2,579回開催し、延べ22,288人の参加がありました。（参考：令和5年度計2,266回開催、延べ19,505人参加）
- ・YA（12～18歳）世代の利用促進を図るため、電子書籍のPRを行いました。中央図書館の自習室にPRポスターを掲示するほか、お正月のイベントにおいて、おすすめの電子書籍をセットしたとしょかん福袋を作成、貸出に供しました。YAサポーターの活動は21回開催し、延べ29人の参加がありました。また、YA世代向け冊子「てくてく」の編集作業は4人が参加し、表紙や特集ページの作成を担当しました。4か月間で延べ15人の活動がありました。（参考：令和5年度サポーター計25回開催し延べ75人参加。YA世代向け冊子「てくてく」の編集作業に延べ29人参加）

(指標) 行事参加者数(対象人口に対する目標割合)			
令和3年度 (策定時)	令和6年度		評 価
	目 標	実 績	
16.2%	経年比増 (令和5年度実績:36.6%)	36.7%	B

※対象人口(0～18歳):65,269人 行事参加人数:23,972人

【図書館協議会委員の意見】

- ◎ブックスタート事業は、タイトルが増えたこともあり、とても魅力的な印象です。配付率上昇もとても喜ばしいことだと思います。
- ◎ブックスタート事業は、親子の支援として有意義な取り組みであり、乳幼児期から本に親しむ体験は得がたい貴重なものだと考えますので、ブックスタート事業等のサービスの充実を進められていることをありがたく感じています。
- ◎ブックスタート事業で、絵本の配付率が80%を超えたのは、高く評価できます。選べる絵本の種類を増やしたり、出張して配付に努めたりした賜物ですね。吹田市の赤ちゃんは、必ず1冊は絵本との出会いがあるようになるといいですね。今後、他市で例がある3歳児での配付

が実現してほしいです。

- ◎乳幼児からYA世代まで幅広い取組みがなされています。周知をより充実させ、行事参加者数の伸びにつなげてほしいと思います。
- ◎出来るだけ大勢の子供たちに読書の習慣づけ出来るよう努力されていると思います。子育て世代へのPRをより充実させて欲しいと思います。
- ◎幼い子供へのサービス内容、とても良いと思います。私自身も子供の頃に図書館へ紙芝居を観に行ったり、夏休みにポスターを見ておすすめの児童書を借りたりしていました。そのように、図書館を生活の一部として育つ子供が増えるといいなと思います。YA世代の活動については、もう少し参加者が増えてほしいという印象です。サービスの充実を図った上で積極的にPRを実施し、児童やYAの利用を着実に伸ばしている点は、高く評価できます。
- ◎毎年「子どもと本のまつり」に参加しています。続けていることで、毎年楽しみに参加してくれている親子や、最近はお父さんとの参加も増えて、むしろお子さんたちより、お父さんたちが楽しんでいることも多いです。子供たちが、ゲームやネットだけでなく、人と対面での素朴な工作など出来上がったものや、絵本や本の世界から、親子で同じ喜びを共有できるこの取組みは続けていただきたいと思います。
- ◎「としょかん福袋」はネーミングもよく、興味・関心が高まり、アイデアのよさを強く感じます。
- ◎長年実施されている「子どもと本の講座」は、子供たちに関わるボランティアとして本読みをしている人にも、実際に我が子に本を読む人にとっても有意義なものです。これからも引き続き開催してください。
- ◎行事参加人数の延べ人数は指標として適切ではないのではないかな。

サービス方針9 子ども読書活動支援センター（※13）

【令和6年度目標の取組み状況】

（目標）

- 1 市立小中学校との定期連絡便（※14）の利用促進に向けて、団体貸出の活用事例を提示するなど、より利用しやすい仕組みを用意します。
- 2 教諭との交流や読書活動支援者への技術的サポートを引き続き実施します。
- 3 図書館を身近に感じてもらえるように、学校の要望に応じて、図書館見学や学校訪問、学校図書館訪問を実施します。
- 4 子供たちの読書のきっかけを作り、図書館の利用促進を図るため、新学期や夏休みなど学期に合わせて図書や図書館を紹介するリーフレットなどを作成し、市立小・中学生に提供します。
- 5 市立小・中学生の1人1台の学習用端末における「すいた電子図書館」の利用を増やすため、定期的にPRを実施するなどの取組を進めます。
- 6 放課後の児童の読書活動を支援するため、留守家庭児童育成室への団体貸出を引き続き行います。

- ・ 市立小中学校との定期連絡便の利用促進及び学校図書館との連携を進めるため、個々の問合せや要望に対してきめ細やかな対応に努めました。
- ・ 図書館見学、学校訪問のほか職業体験については、学校の要望に応じて事前に打合を丁寧に行い実施することができました。(図書館見学:23回、1,598人、学校訪問:3回、64人、職業体験:延べ12校57人)
- ・ 図書や図書館を紹介する取組として、新学期には新1年生向けに「児童向け利用案内(おめでとう!ねんせい)」を、夏休み前には市立小・中学校に全児童・生徒に「もうよんだかな?ミニ版」、「てくてく ミニ版」を作成しました。
- ・ 市立小・中学生の「すいた電子図書館」の利用を増やすため、電子図書館の利用案内を作成し学校を通じて配付するほか、「もうよんだかな?ミニ版」や「てくてくミニ版」でQRコードを掲載して案内するなどPRに努めました。
- ・ 留守家庭児童育成室への団体貸出を継続して行いました。(全36育成室へ26,226冊)

(指標) 学校への団体貸出冊数			
令和3年度 (策定時)	令和6年度		評 価
	目 標	実 績	
25,978 冊	経年比増 (令和5年度実績: 31,002 冊)	30,518 冊	B

【図書館協議会委員の意見】

- ◎小中学校との提携によって子供の読書の機会を創出しているのはよいと思います。デジタルに精通している世代なので、電子図書館の利用促進を鍵として、取組みをさらに進めてほしいです。
- ◎子供を取り巻くICT環境の劇的な変化の中で、従来の図書紹介のリーフレット等の従来の取組みに加えて、児童・生徒学習端末での「すいた電子図書館」のPR活動にも取り組まれ、時代に適合した取組みに尽力されていると感じました。
- ◎学校への団体貸出や定期連絡便は、とてもありがたい。端末の有効活用を進めるうえで、学校における電子図書館の活用も広げていきたいと考えています。電子図書館の積極的なPR等もお願いします。
- ◎子ども読書活動支援センターの活動として、学校図書館の実情を知るとはとても大切だと思います。少しずつでもいいので、学校図書館訪問を実施して、読書活動支援者と交流してください。
- ◎夏休み前に配られる「もうよんだかな?」いつも楽しみにしていました。図書館見学、職業体験も面白そうですね。とても良いと思います。
- ◎私の経験では中学校、高校では図書館をあまり利用しませんでした。また、部活もあって学

校内の図書室も利用しなかったのも興味を持てるような本を選定すると同時に図書館のサービスのPRを強化してもよいのではないかと思います。

- ◎地域の家庭文庫活動は、子供たちの減少や、生活リズムの変化などで、年々衰退してきているのが現状です。しかし、今だからこそ、必要としている人がいる以上は続けていく意味があると思っています。ボランティアの力だけでは限界があり、この細やかに見える活動を、市民活動としてしっかり支援し、支えて下さっていることは、他市の方々にも自慢ですし、これからも引き続きお願いしたいと思っています。

【令和6年度吹田市立図書館の運営について(講評)】

- ◎数値目標を下回るものもありますが、情報環境の変化や人口減少を踏まえると、非常に活発な活動を行っている評価できます。ただし、現在の特に40代以下の年齢層は、印刷媒体よりも電子媒体を好む傾向があると考えますので、印刷媒体も維持しつつ将来的な図書館サービスの在り方については、長期的に考えていく必要があると思います。同時に、印刷媒体を利用できる場所としての図書館の価値についてもしっかりと踏まえる必要があると考えます。
- ◎図書館活動について、指標による評価ではB判定となっているものが多数見られますが、全体的には充実した活動を展開されているかと思います。今回B判定となっている指標には「経年比増」を目標としているものが多いですが、前年度までに大きな成果をあげた場合は、必然的に次年度のハードルが上がるため、目標達成が難しくなるのではないかと考えられます。今後、「経年比増」の目標を設定される場合には、継続的に成果を積み増ししていきけるようなものを中心に、慎重に検討された方がよいと思われます。
- ◎図書館活動について、さまざまな視点から企画・運営されていること、また、それぞれの事業（取組）の意図や継続・拡大の難しさ等、現状の成果・課題が明示され、さらなる向上に繋げべく業務遂行に尽力されていることがよくわかりました。市民のニーズに応えることは大きなミッションであり、行政サービスにおいて不可欠であると考えますが、求められることに応えることに加えて、新たな出会いを提供する、ゼロからイチに繋がられるような図書館活動にも期待します。
- ◎サービス内容が、年々多種多様になる中、ニーズを丁寧に拾い上げ、取組みを立ち上げられ、着実に時代に合った図書館業務の充実に努められていると考えます。
- ◎一利用者としても関わっている身として、かかわりのあることに関しては、満足しています。ただ、地域の図書館は窓口委託となり、図書館に行っても図書館員と一言も話さなかったということもあり、このままこの先図書館がどうなっていくのか、図書館の司書と言葉を交わすことすら無くなっていくことが便利で効率のいいことか、図書館なのかと考えます。せめて、今出来るレファレンスだけでもと、周りの大人や子供たち、その保護者にも、勧めています。
- ◎利用者数の維持は今後の課題なのかなと思います。いつも最寄りの図書館を利用していて、とても良い図書館だと感じているので、今後もたくさんの本や情報との出会いがある素敵な場所であってほしいです。電子図書についてですが、何度か利用していますが蔵書数があまりにも少ないです。個人的によく読む本や好きな作家など、いくつかのワードで検索し

てみましたが電子の方にはほとんど資料がありませんでした。何となく暇つぶしに読んでみる、などの使い方では楽しめますが、従来の図書館のように読みたい本を読めるという訳ではなさそうでそこは残念です。きっと年々蔵書数は増えていくかとは思いますが、電子図書にも費用はかかりますし今図書館で読める本をすべて、という訳にはなかなかいかないと思います。小・中学生の学習用端末で利用できるということですので、その年代の利用の多い図書を優先的に増やしている、などありますでしょうか。個人的には、まんべんなく少ないよりかはある特定の層、例えば小中学生対象の蔵書は充実しているなどのようになっていれば利用者増に繋がって良いのかなと思います。

◎思っていたよりも幅広い活動をしていることに驚きました。ただ、図書館だけでできることと、他関連機関と連携したほうがよいことが混ざっているように思いました。特に後者についてはもう少し検討の余地があるように思いました。

◎吹田市の司書率が高いことは誇らしく、若い司書が増えていっていることは、活気があっていいと思います。専門研修の受講基準にしたがって、より専門性を高める努力を続けてください。「図書館の自由」など図書館運営の基本となることは、学び続けていってください。市役所ロビーでの利用者登録会や出前講座、講師派遣など、図書館の外に出ていき、直接市民に図書館の魅力を伝える事業は評価できると思います。大変だと思いますが、登録率が上がることにもつながると思うので、ぜひ、今後とも続けていってください。

残念ながら、令和6年度は前年度に比べて貸出冊数が減ってしまったのですが、図書購入費の増額がないのが大きな原因だと思います。物価高は本の価格にも影響し、購入できる本の質量ともに影響していると思われます。一方、日常的に本が買えない市民が増えていると考えられます。無料で利用できる図書館の出番だと思います。市民の生活を豊かにするため、市として、予算の増額をお願いしたい。

◎指標に関する評価が軒並み高く、図書館運営が計画通りに進む様子がうかがえます。平常時の取組みのみならず、災害で市民の避難生活が長引いたときに図書館としてできること、市内だけでなく他地域が被災した際にいかに支援できるかなども視野に入れられると、より頼もしい図書館になると考えます。

◎委員になってみて図書館の業務の幅広いことを知ることができました。私が図書館をもっともよく利用したのは小学生高学年で、今では、図書館の数も増えて通いやすくなっただけでなく、サービスも随分進化したと感じます。いまどきの図書館は本の貸出だけでなく、幅広い年代が対象の行事や講座もあればバリアフリーサービスもあるとは思わなかったです。図書館のサービスいろいろをもっと市民に知ってもらいたいと思いますし、周囲にも「図書館のサービスにこんなものもありますよ」とロコミで知らせたいです。反面、図書館職員の方は日頃の業務は大変だろうと推察します。感謝しております。

図書館語句解説

※1 レファレンス(サービス)

何らかの情報あるいは資料を求めている図書館利用者に対して、図書館員が仲介的立場から、求められている情報あるいは資料を提供ないし提示することによって援助すること。調べ方を教えたり、関連する機関を紹介するなど、司書が個別的に援助する諸業務全体をさしている場合もある。

※2 BES データ

点字編集システム(BES:Braille Editing System)で作成した点字データのこと。

※3 音声デイジー図書

デイジー図書とは、国際標準規格である DAISY (Digital Accessible information System) フォーマットによりデジタル録音された電子書籍。そのうち「音声デイジー」は、パソコンで音声データを録音し、編集作業を施して、活字本を読むような形で耳からの読書が可能。専用の再生機(プレクストーク)や再生ソフトで聞くことができ、見出しやページで呼び出したり、飛ばし読みもできる。他にも、合成音声で文字を読み上げたり、文字を大きく表示したりできるテキストタイプの「テキストデイジー」や音声と一緒に文字や画像が表示される「マルチメディアデイジー」がある。

※4 さわる絵本

視覚障がい児などが触覚で鑑賞できるように、絵本を原本にして、フェルトや皮、毛系など様々な素材を使って絵の部分を半立体的に表現して製作された絵本。

※5 サピエ(視覚障害者情報総合ネットワーク)図書館

全国の点字図書館や公共図書館が製作又は所蔵する本の点字データや音声データを集積し、視覚障がい者などがパソコンや携帯電話でダウンロードすることにより利用できるようになっている。また全国の図書館が所蔵する約 66 万タイトル以上の資料のデータを利用することができる。

※6 吹田市生涯学習出前講座

吹田市の仕事やこれから取り組もうとしていることを、市職員が直接出向いて話す事業。吹田市立図書館では「親子で絵本とわらべうた」「図書館使いこなし講座」などのメニューを提供。

※7 パスファインダー

ある特定のテーマについて、資料や情報を探すための手順を簡単にまとめたもの。

※8 図書館フレンズ

平成 24 年(2012 年)から個人登録のボランティアとして図書館が募集し、活動しているグループの名前。

※9 ブックスタート事業

絵本を介して赤ちゃんと家族の絆を深め、心豊かな成長を支援することを目的とする活動。イギリスのバーミンガムで 1992 年に始まった。吹田市では図書館と保健センターが協力して実施。4 か月児健康診査等の案内時にお知らせを同封し、図書館に来館した対象者に絵本を 1 冊贈っている。

※10 抱っこで絵本講座

1 歳児とその保護者を対象とした絵本の読み聞かせについて学ぶ 3 回連続の講座。読み聞かせの意義や年齢に合った絵本の選び方、読み聞かせの方法を図書館司書が解説する。実際に親子で絵本を読み、読むスピードやページをめくるタイミングなどを具体的に学ぶ。

※11 子どもと本のまつり

子供に本を読む楽しさや喜びを知ってもらうために、毎年 4 月 23 日(子ども読書の日)から約 1 か月間、講演会や工作教室、おはなし会などの子供向け行事を全館で行っている。

※12 YA サポーター

図書館で活動する市内在学・在住の中学生から 18 歳までのボランティア。本の整理や掲示物の作成、絵本の読み聞かせや工作教室といった行事の補助などを行う。

※13 子ども読書活動支援センター

学校、幼稚園、保育園、児童会館、児童センターとの連携を進めるため、令和 3 年度(2021 年度)に中央図書館に担当を設置した。子供の読書活動に関わる団体などへの支援を包括的に行っている。

※14 市立小中学校との定期連絡便

子ども読書活動支援センターから、市立小・中学校に向けて定期連絡便を運行し、団体貸出の図書の配達、回収等を行っている。